

新しい障害児・者の理念「スヌーズレン」：広島における現状
第2編 1 症例を通して

呉本庄つくし園

松本 真代

広島大学医学部保健学科

太田 篤志

【はじめに】

スヌーズレンとは、どんな重い障害を持った人であってもリラックスでき、その中でコミュニケーションをとったり、生活の中に潤いを持つことができるのだと聞き、あわただしい通園施設の日常の中で、子どもたちと共にゆっくりと落ち着ける空間を持ちたいという職員の願いのもと、当園では2000年3月よりスヌーズレンの考え方をとり入れた。その実践の中で見られた子どもたちの様子や職員の気持ちの変化について報告する。

【ケース紹介】

Sくん：5歳の重度知的障害男児、(入園期間2年)、自閉傾向あり。日常生活能力は、食事半介助、逆流症があるため、食事は荒みじん。着脱も半介助で促しが必要。排泄は未自立。時間があると自分の体を前後に揺らすなど常同行動がみられる。視野で判断して行動することが多い。

【本児にスヌーズレンを試みてみた理由】

スヌーズレンルームを利用した集団療育の際、一緒に入った子どもたちの中で、特にスヌーズレンの機器に対し興味を持ったこと、また、繰り返しスヌーズレンルームを利用することで本児、自ら大人に寄り添ってくる姿が見られたことが、大きな理由の一つである。また、本児とコミュニケーションをとることのできる遊びは、抱きあげてグルグルまわすことや前転などの限られた遊びであり、また活動に集中する時間も

短い本児が、スヌーズレン機器に対しては、持続して興味を示す姿を見て、スヌーズレンを利用することで、さらにコミュニケーションがとりやすくなるのではないかと考えた。

【本園におけるスヌーズレン環境】

本園のスヌーズレンルームは、3つの部屋から構成されている。3畳程度のスペースにウォーターベッド(音楽に合わせて振動する)、バブルユニット(ブクブクと泡の出るチューブ)がある部屋。同スペースにタッチセンサー(触った箇所が光るボード)、ビーズクッション、ミラーボール、サイドグロー(細いチューブの中にいくつもの光ファイバーを組み込んであり、200本くらいが束になっていて、カラフルな色に変化する)ルミスタージャンボ(オイルで満たされた筒の中にキラキラ光る金属片がはいっていて水流で無造作に動き色も変化する)プロテクター(天井や壁に幾何学模様や空の映像を映し出すもの)アロマセラピーのように匂いを出す器械を置いている。

本児が利用したのは、3畳スペースで音響と、バブルユニット、ウォーターベッドのある部屋である。その中に、必要に応じて他の機材やおもちゃ等もとり入れて利用した。

【経過】

(平成2000年5月～10月にかけて利用) いずれも午前中は通常の療育活動を行い、午後スヌーズレンルームを利用した。

(1回目)

子どもの様子	職員の気持ち
<p>じっとパブルユニットを見ている。日常生活の中でよく見られる常同的な体の動きや特異的な声が止まり、集中してじっと見ている。 (約20分) 時々体の位置や向きを変え「アイヤー」の発声がある。退室後もあまり変わった様子はなく絵本をじっと見ている。</p>	<p>本児がじっとしている様子に驚いた。しかも、こんなに長い時間集中していることが不思議だったのような声がけがよいのかわからず、時々「きれいだね」と声をかける。 退室後は「Sくん、きれいだね」と声をかける。</p>

(2回目)

子どもの様子	職員の気持ち
<p>周りを見渡しているが次第にパブルユニットに集中していく。ウォーターベッドに乗るのは拒む。ベッドへの昇り降りを繰り返していた後、ウォーターベッドの上を歩いてパブルユニットの前へ行っている。15分程度の後、職員の背中に寄り添い始め、その姿勢でパブルユニットの泡の動きを見ている。退室後もあまり変わった様子はなく時々思い立ったように走</p>	<p>ウォーターベッドに誘ったとき最初は嫌がる2度目も他の子どもが揺らしてしまいうすぐりに降りてしまう。3度目はなるべく揺らさないように誘ってみる。 そばで「きれいだね」一緒に見ていると自分から背中につき始める。まるで同意を求めているかのようだったので本児の体のリズムに合わせて一緒にゆれてみた。 退室後、「楽しかったね」と声をかけた。</p>

<p>ったり絵本を見たりしていた。</p>	
-----------------------	--

(3回目)

子どもの様子	職員の気持ち
<p>レインボーチャイム(回転しながら落ちていく玉落としのおもちや)にチラッと向く。そばに来てじっと見ている。 その後、パブルユニット見始める。ウォーターベッドは最初から抵抗なく座れる。慣れてきたこともあり自分で少し移動する退室後は、前回と変わらず時々思い立ったように走ったり絵本を見たりしている。トイレの個室に入っていた。</p>	<p>「きれいな音がするね」とビー玉を見せて「やって見る？」と問うとその場から離れていってしまう。 「あまり興味なかったかな、他に何に興味を示すだろう」と思った少し観察してみようと思いじっと行動を見ていた。 「前回よりも時間的には集中時間は短かったな」と感じた。</p>

(4回目)

子どもの様子	職員の気持ち
<p>パブルユニットを見ている。以前は一箇所に立ち止まり見ていることが多かったが、ウォーターベッドにあがったり降りたりを繰り返しつつ見ている。5分程度経過してパブルユニットに自分の顔をついたり触ったり、の</p>	<p>Sくんがどのような気持ちで見ているのかを知ろうと呼吸を合わせようとした。「きれいだね」と時々声をかけるが全く反応しない。 「一つの機材に対してこんなに色々な角度から物を見ている」と感心した。一緒に</p>

<p>ぼろうとしたりする。次第に色の変化を自分で顔の角度を変えながら見ている。職員が声をかけたときにチラッと振り向くが気にせず自分の好きな角度を見つけるかのようにウロウロと色々な方向から眺めている。バブルユニットから離れベッドの上を歩き振動を楽しみ出す。職員のほうへも近づいてくるがすぐ離れていく。大人に手渡されたおもちゃを手にとり見つめるがすぐに手放す。他のおもちゃを渡すが手を離しドアを押して部屋から出ようとする。</p>	<p>バブルユニットを覗いてみる。本人が見ている位置と同じ所から見てみる。S君はほとんど大人を意識していない。Sくんが歩こうとする足先を押してベッドに揺れが来るようにしたベッドの上を歩くのに飽きた様子なのでおもちゃを渡す。 「どうすれば職員に歩み寄ってくれるかな」と考えながら行動を見ていると「そろそろ飽きてきたかな」と思った。 「部屋から出たい」という意志と判断して終了する。</p>
---	--

<p>向かい合わせに見えるようにかざした大人の手も喜び見ている。サイドグローには全く興味ないようである。 ベッドの端とバブルユニットとの間を歩き来している。大人の背中に寄り添ってバブルユニット見ているが、2・3度大人の顔を嬉しそうに見る。 退室後、大人が嬉しかったからか心持微笑んでいるように見えた。</p>	<p>サイドグローを手にとって見せた。 一緒に動かずベッドに横たわってバブルユニットを見た。 一緒に共感しているってこのことかな?と感じ嬉しくなる。大人が嬉しい気持ちになりSくんにも他の園児にもやさしくゆっくり声かけをしていた。</p>
--	--

【考察】

スノーズレンを経験する中で、「共感したり、コミュニケーションをとるってどういうことだろう」という疑問が常にあった。最初は、機材を見ても美しいとあまり感じず、「なぜ、子どもたちは、この機材に魅了されているのだろうか」そう考えて行っていた。ある日、ダイビングをした時に海のそこから見る自分の吐いた息の泡を見て体の動きが止まる感動を覚えた。バブルユニットを子どもと一緒に覗いているとき、ふとあの時の感動を思い出し、少し子どもたちの気持ちを感じることができたように思う。そういう時、子どもから発信している「きれいだね」という気持ちに気付くことができたのではないかと思う。

今後も子どもたちと一緒に新たな発見をしながら楽しんで行ってみたいと考えている

(5回目)

子どもの様子	職員の気持ち
<p>入室前、S君の好きなスキンシップ遊びを十分行ってから入る。 最初は部屋をクルクルと見渡しているが、バブルユニットを見つけて覗きだす。ウォーターベッドの昇り降りを繰り返しながらバブルユニットをずっと見ている。</p>	<p>本人の好きな遊びを充分に行ってから行おうと思った。 気持ちを集中させてSくんが興味あるものはなにか知ろうとし、なるべく彼の呼吸に合わせてしようとした。 バブルユニットの反対から人の手が見えるようにかざす。</p>